

## ▼レスタミンコーワ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ジフェンヒドรามミン塩酸塩 (U) Diphenhydramine Hydrochloride 【分類】抗ヒスタミン剤

【単位】▼10mg/錠

【常用量】1回 30～50mg

【用法】1日 2～3回

【透析患者への投与方法】透析性が低く、データが少ないので注意して適用すべき (Nguyen T, et al: Am J Ther 2019 PMID: 31513022)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量 (12)

【特徴】H1 受容体遮断剤 (ヒスタミンと競合)。ムスカリン受容体を介してアセチルコリンの中枢での阻害効果を持つ。抗ジスキネジー作用、鎮吐作用、鎮咳作用、抗眩暈作用、催眠鎮静作用も有する。抗ヒスタミン剤の中で最も眠気が強い。

【主な副作用・毒性】めまい、眠気、倦怠感、発疹、頭痛、神経過敏、悪心・嘔吐、下痢、動悸、頭重感、眩暈、口渇など

【安全性に関する情報】QT 延長に注意 (Shah A, et al: J Cardiol Cases 2015 PMID: 30546575)

【吸収】良好 (U)

【F】72% (1,13)

【tmax】1～4hr (U) 2～3hr (1,13)

【代謝】肝 (いくらかは腎) の P450 で代謝 (U) 肝臓で脱メチル化され、さらに酸化される (1)

【排泄】代謝物として腎排泄 (U) 尿中未変化体排泄率 1.9% (13) 2% (12) 1.49% [po] (1)

【CL】6.2mL/min/kg, 加齢により低下 (13) 600～1300mL/min (1)

【t1/2】1～4hr (U) 8.5hr, 肝硬変・加齢により延長 (13) 5.3～11.7hr (12)

【蛋白結合率】98～99% (U) 78%, 肝硬変により低下 (13) 80% (12)

【Vd】4.5L/kg (13) 3.3～6.8L/kg (1,12) 炎症状態での脳内移行上昇と OCT の関与 (Kawase A, et al: Brain Res 2021 PMID: 34280372)

【MW】291.82

【透析性】除去率 28%, HD クリアランス 108.7mL/min (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997)

急性中毒治療に血液吸着と HD を実施して有効であった症例 (Mullins ME, et al: Ann Emerg Med 1999 PMID: 9867896) 小児の中毒に HD を実施 (McKeown NJ, et al: J Med Toxicol 2011 PMID: 20865465) High cut-off HD による中毒患者の救命 (Baroke E, et al: Clin Nephrol 2015 PMID: 25600858)

【薬物動態】ジフェンヒドรามミンとして 25～50ng/mL で鎮静作用なく抗ヒスタミン作用, 60ng/mL 以上で鎮静作用が発現 (1)

【相互作用】中枢神経抑制剤と併用注意 (1) 抗コリン剤との併用で抗コリン作用が増強 (1) プロプラノールが脳内からのジフェンヒドรามミンの排出を阻害して脳内濃度を高める可能性 (Au-Yeung SC, et al: Drug Metab Dispos 2006 PMID: 16510542) CYP2D6 を阻害 (Sharma A, et al: Curr Drug Metab 2003 PMID: 12678691)

【効果持続時間】6～8hr (U)

【備考】ジフェンヒドรามミン塩酸塩は味が苦く、舌を麻痺するため糖衣錠としている

【更新日】20240930

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。